

LET IT BE

悩み苦しんでいるときには
母なるマリアがぼくを訪れ
知恵ある言葉をかけてくれる
なるがままに

(略)

打ちひしがれた人たちが
この世界で心をひとつにしたとき
きっと答えは見つかるだろう
なるがままに

(以下略)

この詩は、1970年3月にビートルズが発表した「LET IT BE」という曲の一部です。

この曲は、ポール・マーカットニーの作品ですが、彼が、1969年のゲット・パーク・セッションでビートルズが分裂状態なりつつあるのを悲観していた頃、亡き母メアリー・マーカットニーが降りてきて「あるがままに受け入れるのです」と囁いた。そのことに触発されて書いたというのは有名な話です。

なお、ビートルズはイギリス・リヴァプール出身のロックバンドで、1962年にデビューし、「LET IT BE」という曲を発表した年の1970年4月に解散しています。

ところで、この詩のテーマである「LET IT BE」(公式日本語版では「なるがままに」)という言葉について、皆さんはこれをどう受け止められますか。

「なるがまま」ですから、ここから先は運を天に任せるということでしょうか。自分の人生を、何か大きなものにあずけるという感じではありますが、だからといって、自分の人生を人任せにするということとも違うように思います。いってみれば、「人事を尽くして天命を待つ」に近いかも知れません。

似たような言葉にケセラセラ（なるようになるさ）というのがあります。「先のことなど誰にも分からない。なるようになるさ。」という響きには、投げやりということではなくとも「人生なんてそんなもの」と、どこかで達観しているように感じます。

「あるがままに」という言葉もあります。今の自分、更にはその自分を取り巻く環境をそのまま受け入れていく、こう考える人は受動的かも知れないけれど、幸福に一番近いところにいるのかもしれない。

これに対して、「なるがままに」という言葉には、自分自身の未来を積極的に受け入れようという意志が、私には感じられます。

この「LET IT BE」というフレーズは、英語訳聖書の中にも出てきます。聖母マリアはイエスを身ごもったとき、「どうしてそのようなことがあり得ようかと」戸惑い悩みます。そのマリアに対して、天使は「神にできないことは何一つ無い」と伝え、それを聞いたマリアは「Let it be with me according to your word（どうぞ、み言葉のごとくなりますように）」と述べたと聖ルカによる福音書は伝えています。

「LET IT BE」という言葉からは、これからの波乱に充ちた人生の全て受け入れていくという、マリアの強い意志と決意が伝わってくるようです。

そういえば、ポール・マーカットニーの亡き母の名はメアリーと呼ぶのでした。（塾頭 吉田 洋一）